

ピコハウス BD簡易オーサリング/ライティングシステム Easy3D

Studio DU 主宰/ディレクター 林 和哉 (<http://studiodu.com/>)

ピコハウスから、10月29日、Blu-ray 3Dを手軽に作成できるBD簡易オーサリング/ライティングシステムEasy3Dが発売された。さっそく取材にうかがい、いろいろと話を聞きすることができたのでレポートしたい。

3D映像のオーサリング

パナソニックのAG-3DA1の発売で可能になった、ENGスタイルの3D撮影。すでに多くの人が撮影を行い、コンテンツを制作していると思う。

視聴の際には、サイドバイサイドで出力し、テレビ側でシャッターメガネで見られるようにフレームシーケンシャルに変換させるのが一般的だ。また、放送以外で手軽にテレビへ出力する方法は、Blu-ray DiscやDVDにオーサリングすることだろう。

現状、3D映像を光学式メディアにオーサリングする場合、2つの方式がある。

- ・サイドバイサイドまたはラインバイラインのクリップをBlu-ray Discオーサリングする

・撮影サイズのままBlu-ray 3Dにオーサリングする
サイドバイサイドは、今までの送出系統をそのまま利用できるので、単純にサイドバイサイドのクリップをBlu-ray Discにオーサリングすれば良かった。しかし、水平方向にスクイーズするため、画質は確かに落ちてしまう。せっかく奇麗に撮っているはずの3D映像を、フルサイズで見てみたいと思うのは必然だ。

そこでBlu-ray 3Dの登場となる。Blu-ray 3Dは、サイドバイサイドと違って、解像度を下げることなくプログレッシブでフレームシーケンシャルに送出する規格だ(ただし、対応したプレーヤーが別途必要になる)。

しかし、フレームシーケンシャルに最適化したBlu-ray 3Dのオーサリングは簡単ではない。Blu-ray 3Dは、MPEG4 MVC(Multiview Video Coding)という方式に素材をエンコードする。

また、今までとは違うオーサリングのため、これまであったDVDやBDのオーサリングソフトウェア/システムでは作成できず、業者にオファーをするにも予算組みが難しいので、なかなかタイトルを作成することができなかった。

そこへ現れたのが、Easy3Dだ。

Easy3Dの登場

Easy3Dは、前述のとおり、ピコハウスが開発・発売するBlu-ray 3D制作に対応したBD簡易オーサリング/ライティングシステムだ。難しい設定を必要とせず、だれもが簡単にBD-RディスクのBlu-ray 3Dを作成できる画期的なアプリケーションである。

特にパナソニックの一体型二眼式3DカメラレコーダーAG-3DA1との親和性が高く、撮影したSDメモリーカードをペアでマウントすると、丸ごとBlu-ray 3Dしてくれる。クリップごとにチャプターポイントまで打ってくれる親切ぶりだ。

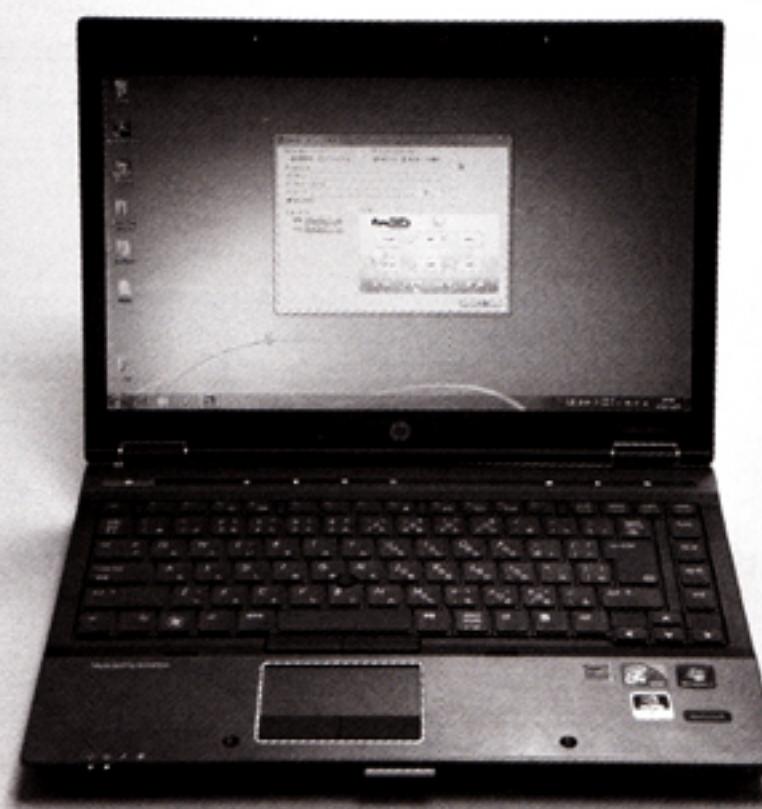


写真1 Easy3DはノートPCによるターンキーで提供される

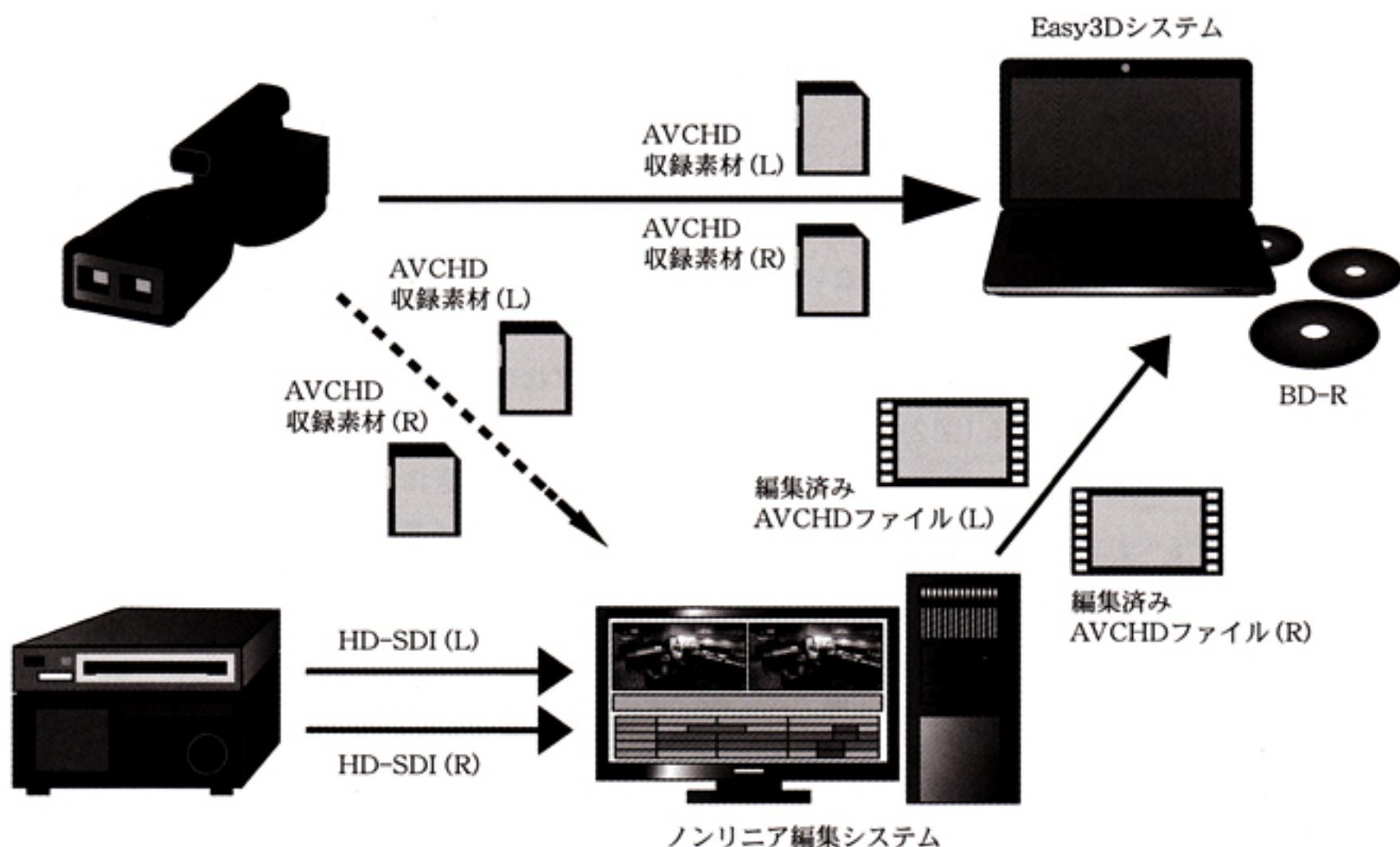


図1 Easy3DによるBlu-ray 3D制作のワークフロー

基本操作は、

- ・素材の登録
- ・変換
- ・メニュー設定
- ・BD-Rに書き込み

とシンプルである。パッケージとしてのBlu-ray 3Dではなく、カタログ用途など、小ロットのBlu-ray 3Dを作成するのに適している。オンデマンドコピー請負業務としても使えるかと思う。対応フォーマットとしては、AVCHDの1920×1080/23.98pと1280×720/60pをサポートしている。

読者の中には「おや、AVCHDのみ?」「おや、1080/60iは?」と思われた方もいると思う。AVCHDフォーマットのみであるのは、Easy3DではMPEG4 MVCへのエンコードは行わず、AVCHDのストリームに細工をしてBlu-ray 3Dに対応したビデオトラックを作成するようにしているからだという。

この場合、高価なエンコーダーが必要ないという点と、操作が簡単、エンコードの時間がかかるない、という利点がある。

- したがってオーサリングする素材を準備する際は、
- ・AG-3DA1の場合はSDメモリーカードから、不必要的素材を削除する
- ・編集が完了したシーケンスを、Lch、RchそれぞれAVCHD形式に書き出す

としておけばよい。AVCHD形式というのは、SDメ

モリーカードにカメラで記録した状態のフォルダ構造を指す。現状もっとも安価に書き出せるノンリニアアプリケーションには「EDIUS 6」が挙げられる。

1080/60iがない点は、もともとのBlu-ray 3D規格が1920×1080/23.98pと1280×720/59.94p, 50pのみのサポートとなっているからである。

これは困った、と思ったのだが、ふと「ものは考えようだ」と切り替わった。もともと720/60pで撮った映像は、60iよりもハッとするほど鮮明で、臨場感があった。筆者自身、のちのちも素材として使えるように撮影するものは、あえて720/60pで撮影するようにしていたぐらいだ。

実際、60iのものをサイドバイサイドオーサリングしたものと、60pでBlu-ray 3Dにオーサリングしたものとでは、60pで撮影したもののはうが、鮮明で画質的に優れているそうだ。

今後、Blu-ray 3Dでのオーサリングを睨んだ映像制作は、劇映画などの現実感を伴いたくないものは1080/24pで、Live感の必要なものは720/60pで撮っていく、という割り切りが良いようと思われる。

- しかし、すでに60iで作成したものはどうするか、
- ・1080iを720pにクロスコンバートし、AVCHDパッケージにする
- ・オーソドックスにサイドバイサイドでオーサリングする

という2つからの選択となるだろう。

作業の流れ

では、Easy3Dの操作を見ていこう。

まず、最初に L ch と R ch の AVCHD 素材をパソコンに接続する。そして、つぎにドライブにブランクメディアを入れる。メディア入れないと起動しない仕様だ。これは、後述する追記機能を使用する場合などで空き容量をきちんと計測するためだ。

起動すると、トップ画面が現れる(図2)。

①「データの登録・変換」

②「メニューの設定」

③「ディスクの作成」

④「バックアップの作成」

という構成だ。

①データの登録・変換(図3)

「Lデータ:」「Rデータ:」のそれぞれにデータを登録する。データを選択すると、タイトルメニューに出るサムネイルが表示される。これは、クリップの頭のフレームをサンプリングしている。データ名として入力した文字は、データ管理の際のサムネイル・タイトルになる(図4)。

もちろん良ければ、変換ボタンを押し、データの変換を開始。所要時間は、およそ1Gバイトが1分。取材時にデモしていただいたシステムPCのスペック

は、CPUがIntel Core i5 プロセッサー 2.54GHz、メモリー4Gバイトであった。

②メニューの設定(図5)

この項目では、以下の設定を行うことが可能だ。

- ・トップメニュー

- “使用する”

- “ファーストプレイ”

それぞれラジオスイッチになっている。ファーストプレイのみにチェックを入れれば、ディスクをプレーヤーに入れたときに、そのままビデオが流れ、繰り返し再生されるディスクができる。トップメニューを使用すれば、通常再生か繰り返し再生かを選ぶボタンが付加されている。

- ・オープニング

- “表示する”

- “表示設定確認”

「オープニング」は、Easy3Dのロゴが画面前方に出てくるアニメーションだ(写真2)。“表示する”を選択すると、再生開始時に表示されるようになる。視聴者のつかみとして、3Dを印象づけるのに一役買うだろう。

「表示設定確認」は、接続状態を確認し、3D表示が可能な場合にアナウンスを表示してくれる機能だ(写真3)。テレビとプレーヤーの同期が取れないなどで、

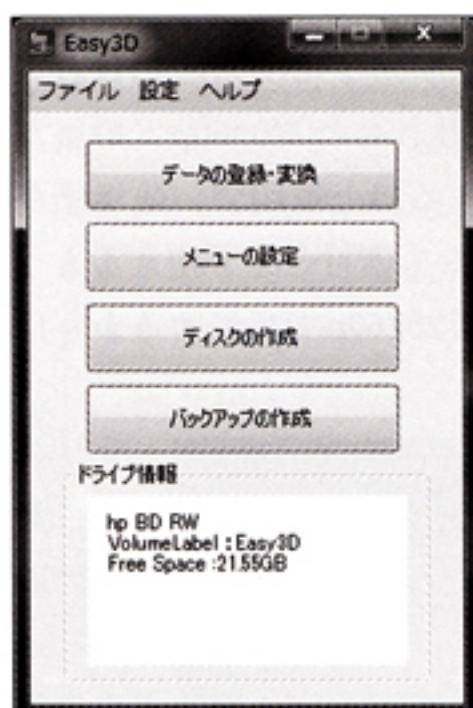


図2 トップ画面。メニューは「データの登録・変換」「メニューの設定」「ディスクの作成」「バックアップの作成」の4項目のみ

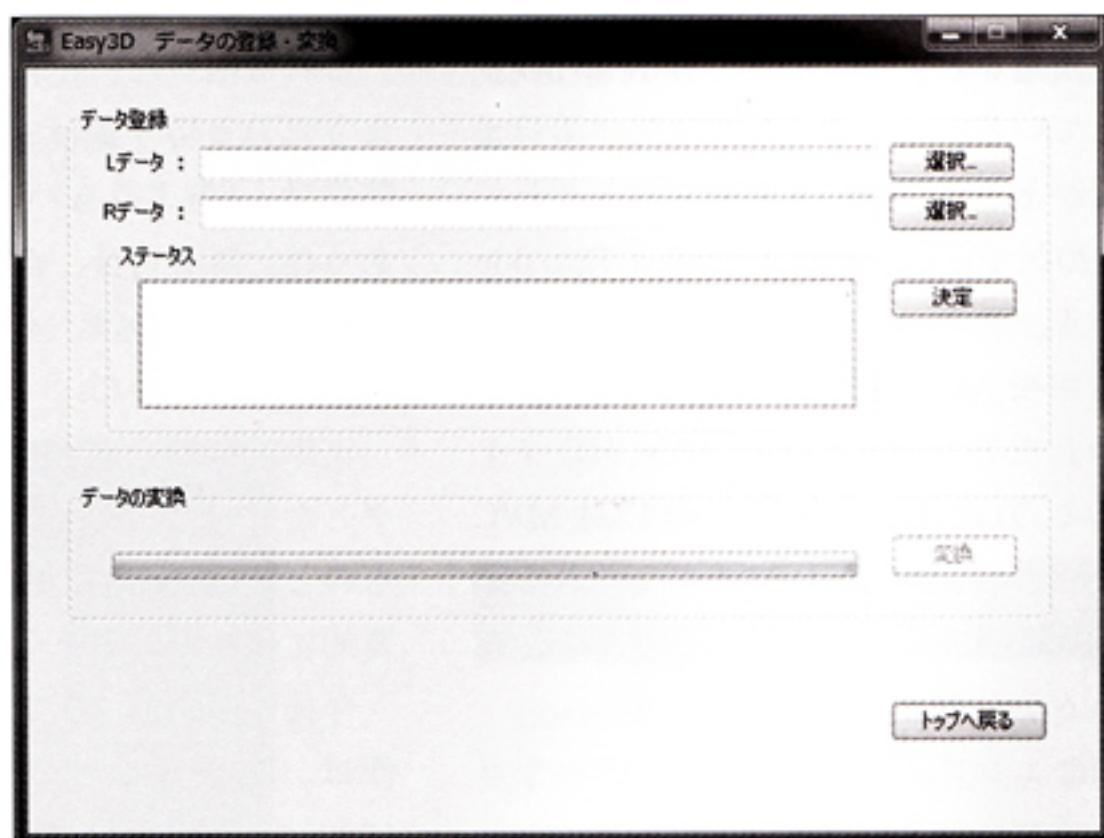


図3 「データの登録・変換」ウィンドウ。「Lデータ:」と「Rデータ:」のそれぞれにデータを登録し、変換する

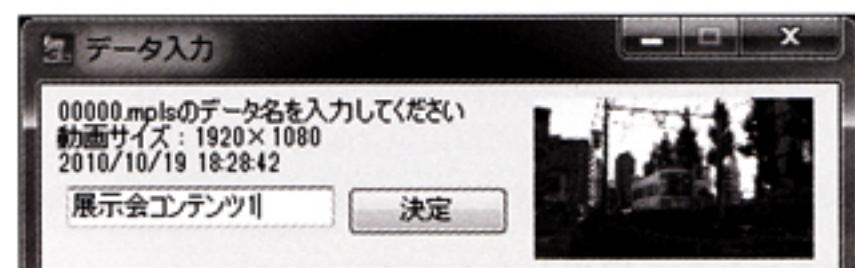


図4 データ名として入力した文字は、データ管理の際のサムネイル・タイトルになる

正しく3D表示がされない場合があり、視聴者がいま見ている映像が2Dなのか3Dなのか、混乱しないようにしてくれる。

- ・ディスクタイトル
- “テキスト”
- “テキスト+イメージ”
- “イメージ”
- “Easy3Dロゴ”

ここでは、メニュー上部に表示されるタイトルのスタイルを選ぶ。イメージはテンプレート以外に、事前に用意したものも使用できる。入力したテキストは、プレビューですぐに確認可能だ。

- ・メニューPARTS
- “背景”
- “ボタン”

使い勝手の良い壁紙とボタンのスタイルがテンプレートで用意されているので、その組み合わせを選ぶ(写真4)。そのほか、事前に用意した静止画を割り当てることが可能(jpeg、Png、Gif)。ピコハウスではPNGを推奨している。

③ディスクの作成(図6)

タイトルとメニューの設定ができたら、いよいよ書き込みだ。まず、書き込むデータを選択する。

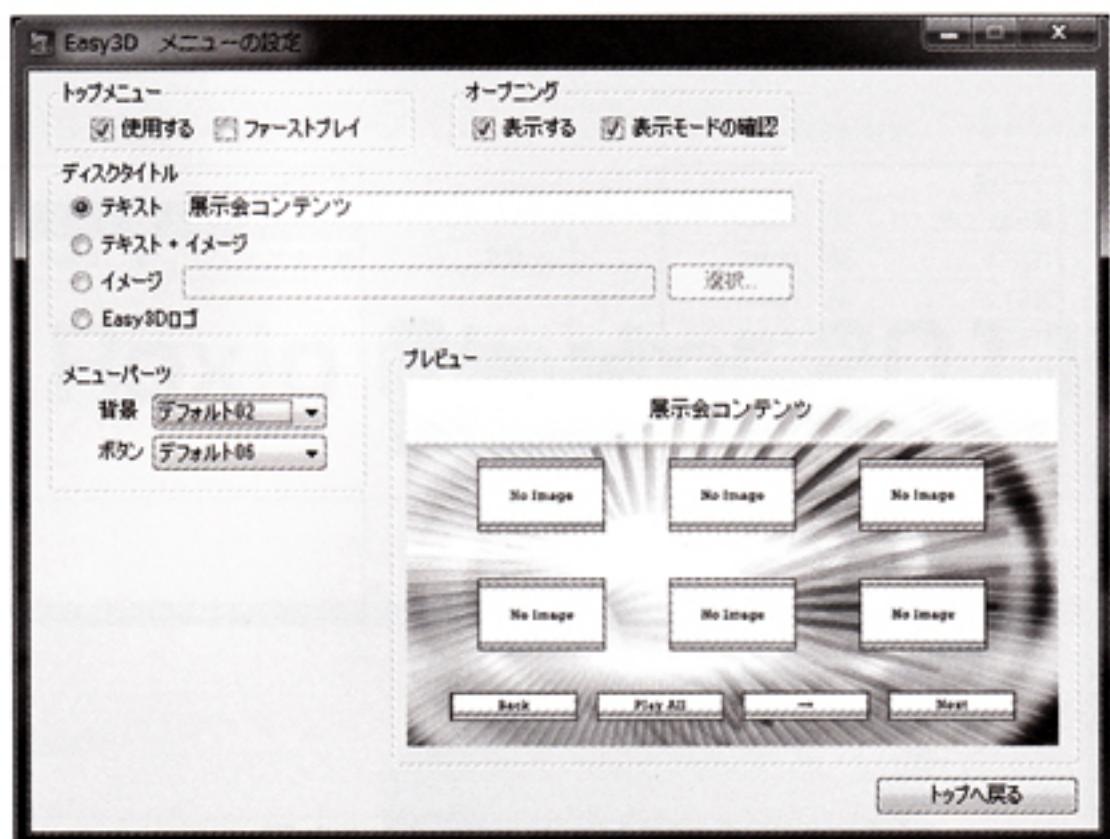


図5 「メニューの設定」 ウィンドウ

ダイアログボックスの中に、左右に1つずつリストが表示される。左側にある変換済みのデータから、書き込むデータを選択する。

ワンソースがボタンに割り当てられ、そのソース内のClip単位でチャプターが作成される。焼き込むスタイルが非常に秀逸だ。書き込みに関してはUDF 2.6に対応し、LOW(Logical Over Write)の機能を利用した追記や上書きも実現しているので“追記”と“新規”

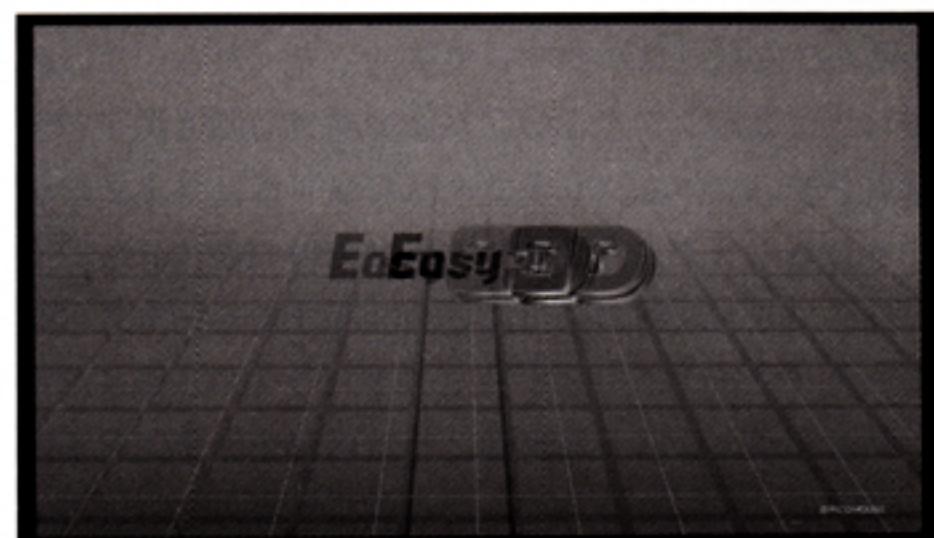


写真2 オープニングアニメーション



写真3 表示設定確認

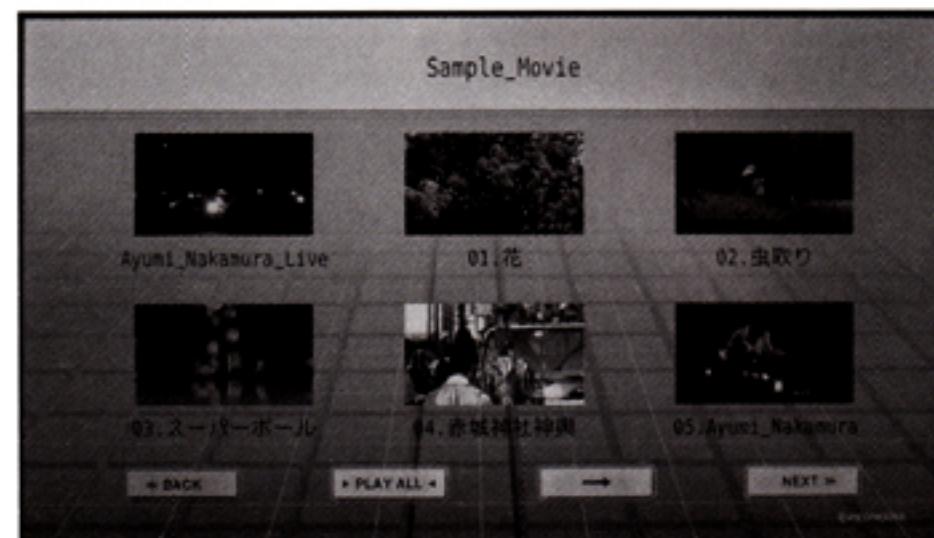


写真4 テンプレートメニュー(背景とボタンの組み合わせ)の例



写真5 ポップアップメニューは自動的に付加される

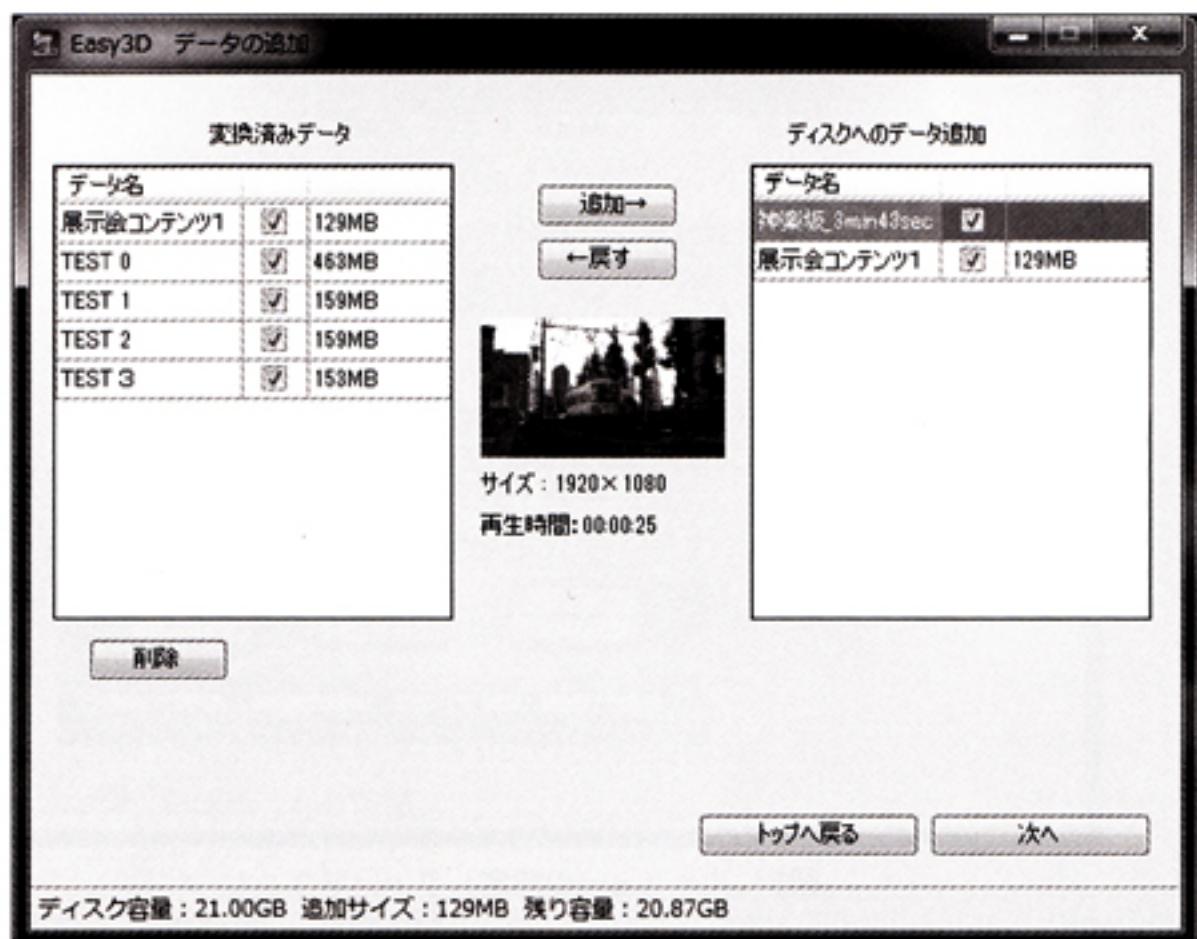


図6 「ディスクの作成」 ウィンドウ

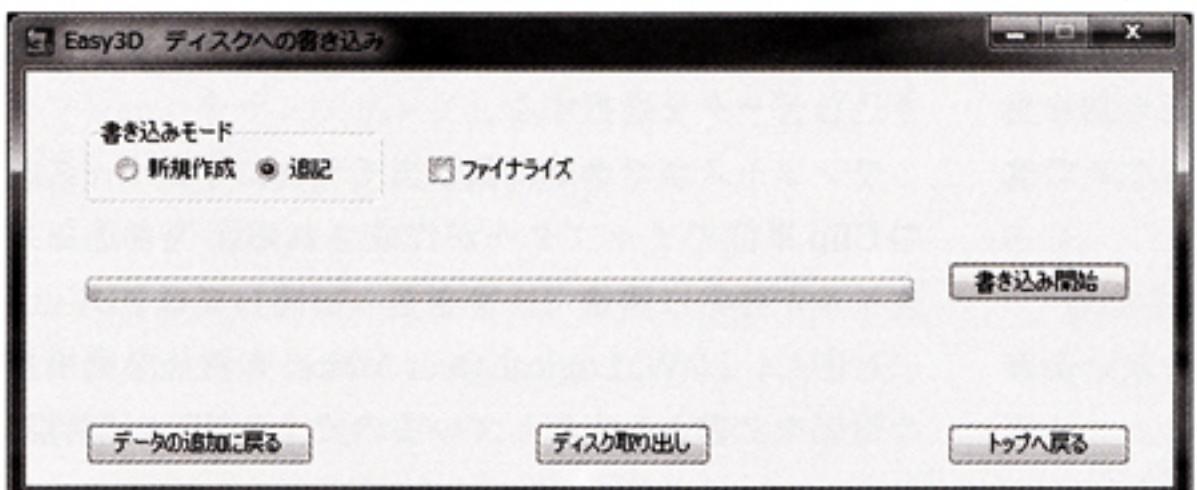


図7 書き込みモードは“追記”と“新規”を選ぶことができる

を選ぶことができる(図7)。

“追記”の場合、メニューをそのままに、新しいクリップを追加。“新規”の場合は、今までと違うメニュースタイルを使用し、書き込める。

どちらの場合も、ディスク容量の一杯まで繰り返すことができるので、短尺のものをプレビューする際に、ディスクを経済的に使用することが可能だ。

④バックアップの作成

この機能では、AVCHD フォーマットのフォルダを Blu-ray Disc にオーサリングではなくバックアップすることができる。

★ ★ ★

こうして見てみると、Easy3D では、操作に迷うことなく簡単に Blu-ray 3D を作成できることがわかったもらえると思う。

前述したとおり、このアプリケーションはプレスを伴う大量ロットの Blu-ray 3D を作成するのではなく、小ロットで完結する BD-R による Blu-ray 3D の作成に

重点を置いている。

もちろん「こんな機能があったらいいのに」という部分もあり、取材の際に思いつく部分をリクエストしてみたところ、

- ・ターンキーのみ。専用機としての簡便さを優先した
- ・今回のリリースは市場への提供を最優先に、いろいろな要望を理解しつつも現状での出荷を考えた
- ・操作が複雑にならない限り、ユーザーの要望に応えていく

という趣旨のお話を聞くことができた。

Easy3D は、非常に魅力的なアプリケーションに仕上がっていると思う。これからのバージョンアップにも期待したい。

価格: ¥189万(税別) **発売:** 2010年10月29日 **問い合わせ先:** 製品に関して; ピコハウス 開発部 TEL 03-3266-8855、<http://www.pico-house.co.jp/> 販売に関して; 三友 営業本部 営業開発部 TEL 03-3463-1601、<http://www.mitomo.co.jp/>